

茶園におけるヤマビルの発生消長とその対策

北相地区事務所

ヤマビルが発生している茶園では、生産者がヤマビルの被害を受けることが多く、管理作業に支障を来しています。そこで、ヤマビルが生存しにくい茶園の管理方法を明らかにするため、ヤマビルの発生消長と茶園管理作業がヤマビルの生存に及ぼす影響を調査しました。

その結果、ヤマビルは4月～6月に増加し、夏期には減少するものの、9月～10月上旬に再び増加し、それ以降は減少する傾向がある他、湿度が高い茶園に多く生存している傾向が認められました(図1)。また、ヤマビルは、茶の害虫防除を目的とした農薬散布により減少する傾向がありました(図2)。さらに、これまでの知見では、本県では、イノシシとシカを主な吸血源としてヤマビルが繁殖していることが明らかとなっています。

これらのことから、茶園におけるヤマビル対策としては、薬剤散布などの通常茶園管理、湿度を下げる対策、動物を茶園に近づけない対策等が有効であると考えられました。

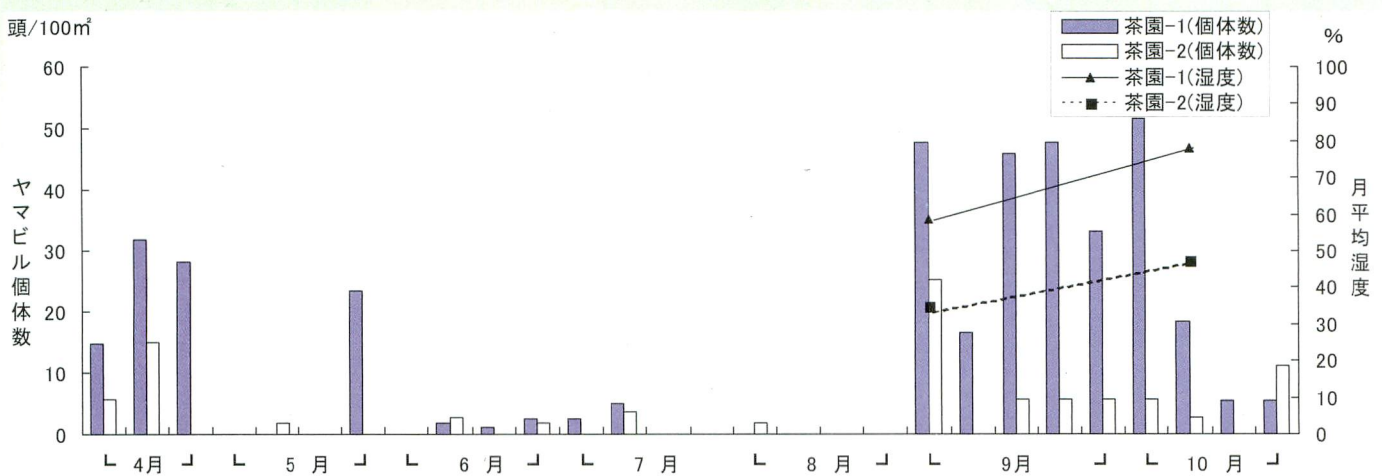


図1 ヤマビル個体数と月平均湿度の関係

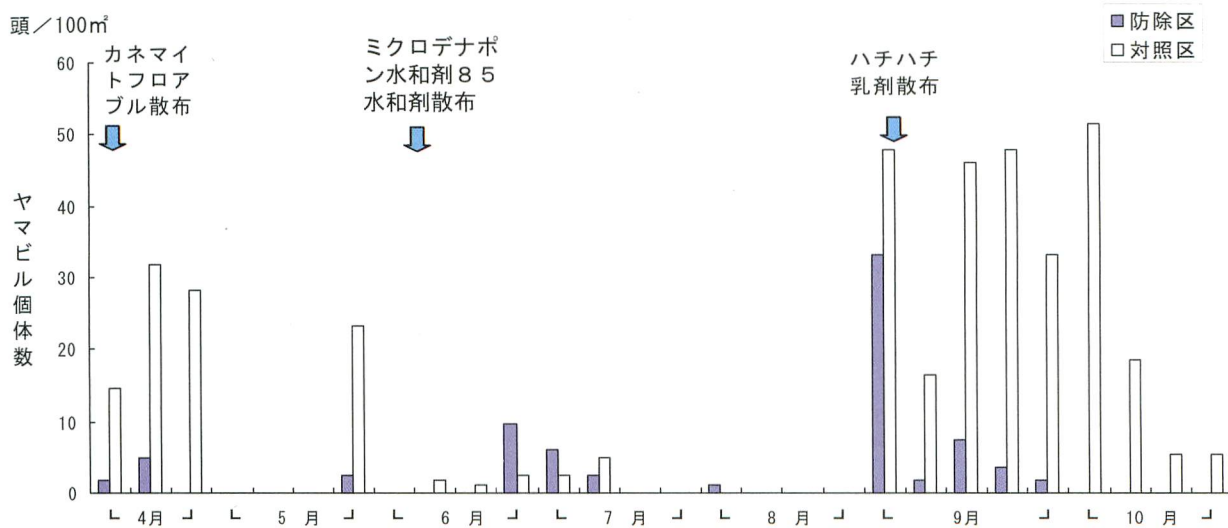


図2 茶の害虫防除とヤマビル個体数の関係